



地域交流と夏休みの思い出

8月17日（土）に青少年育成部会主催で「おかしなきもだめし」が行われました。最初に子ども達はアロマキャンドルを手作りし、その後、カレーとカキ氷をいただきました。あずま太鼓のみなさんには、迫力ある和太鼓をみせてもらい、体験させてもらいました。暗くなってきた頃、みんなで作ったキャンドルが灯され、幻想的な雰囲気を感じました。校舎内ではきもだめしがスタートし、色々な仕掛けがあり、思っていた以上に怖くて驚かされましたが、とてもおもしろかったです。大人も子どもも楽しむことができ、地域の交流の場となり夏休みのいい思い出が出来ました。



水沢地区の人口	総数……3,310人	男……1,603人	女……1,707人	世帯数……1,133世帯(26.2.1現在)
---------	------------	-----------	-----------	------------------------

水沢地区まちづくり 構想策定委員会

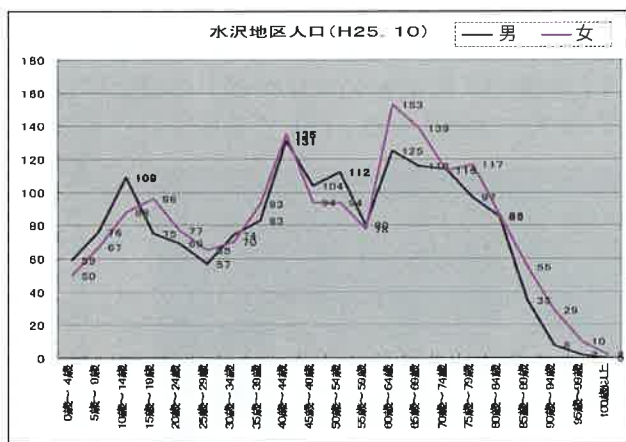
【都市計画・インフラ】

- ・ 空き家の対策、有効活用
- ・ 若者の流出、急激な少子高齢化の対応
- ・ 市街化調整区域のままでいいのか
- ・ 公共交通減少の懸念と対応



人口の流出を食い止める行動をおこなえば減少するばかりです。活気のある水沢地区になっていくには、若い人たちの知恵や活動的な行動も多く取り入れ中心となってほしいと思います。空き家もあちこちで増えているようです。人口の流出や少子高齢化の問題もあって解決策を模索しています。

放置し続けると色々な問題が出てくることも考えなければなりません。隣近所に迷惑（最悪なケースでは、倒壊や不審火）をかける前に何か良い方法はないか？空き家を借家や貸店舗に転用できないか？真剣に考えなければならぬことが山ほどあると思います。



【コミュニケーション】

- ・ 歴史や文化・伝統の継承
- ・ 地域コミュニティの維持・発展
- ・ 人材育成



老若男女、住民がこれからも生きがいのある明日、将来に向けて進むことは水沢地区だけの問題ではなく全国どこにでもある問題です。

もみじ祭りでの星の広場はとても賑やかで人も多く集まり、今までになかったことです。課題はたくさんありますが、色々な立場の方々からご指導を受けながら、昔のことを大切に、これからも続いていくことを願っています。

水沢地区の特色も出しながら進めなくてはなりませんし、他地域の情報なども取り入れ良い方向に進んでほしいと願っています。

真剣に考えなければならぬことが山積みです。



水沢地区まちづくり構想策定委員会が発足して、間もなく3年目を迎えようとしています。会の愛称を募集し、ほぼ毎月「夢っ茶すいざわ通信」として皆様にお知らせしていますので、活動をご存知の方も増えてきています。

幅広い年齢層のメンバーが毎月集まり、現状の色々な問題や水沢の未来について、10年後、20年後の姿を想像しながら、これからの水沢をより住みよいまちにするにはどうしたらよいか、皆様のご意見やお知恵を拝借しながら真剣に話し合っています。

市街化調整区域のままでいいのか？
現状のままで何か良い策はないのか？
外したほうがいいのか？

色々な立場から考えなければならない重要な課題をみんなで取り組んでいかなければならないと思います。



将来の問題と捉え、 話し合っている主な内容

【自然・産業】

- ・ 自然や農地、用水の保全・保護・活用
- ・ 地場産業である茶業の振興、農家の後継者問題



水沢地区は農地や森林、自然が多く、農業や林業で生計を立てている人が多い地域でした。市街化調整区域では、乱開発が抑制され、土地の固定資産税を低く抑え、農林業を保護育成する区域にも指定されるなど、地域やそこに住む人たちを守り、今でも農業に従事する人たちにとってとても大切な制度の一つです。

しかし現在、農林業は大変厳しい状況です。水沢地区は昔からのやり方をこのまま続けていく事に対し不安が出てきています。

森林の保護や営みも、木材価格低迷や少子高齢化社会を迎え、現実には厳しく森林は荒れていき、土砂崩れや道路の整備にも手が行き届かない現場も増えています。

茶農家も岐路に立たされています。後継者の問題なのか草が生い茂るところも出てきています。

他の地域では耕作放棄された農地にソーラーを設置するなど、新しい動きもみられます。

将来、水沢地区として良い方法はあると思います。みんなで考えていかなければならないでしょう。



受け継がれている郷土芸能

四日市市主催の「郷土が誇る芸能大会」において、水沢地区としては、『お諏訪おどり』『宮妻音頭』水沢野田町の『太鼓踊り』が披露されました。そこで今回は『太鼓踊り』と『宮妻音頭』を紹介します。

水沢野田町に伝わる『御幣送り』『太鼓踊り』

かつて水沢野田町の太鼓踊りは、お盆や地藏盆、愛宕神社の秋の祭礼で行われていましたが、担い手であった青年団の解散により、昭和33年にいったん途絶えました。

地域の伝統行事が消滅するのを危惧し、昭和40年に愛宕神社の秋の祭礼、昭和59年に地藏盆で太鼓踊りを復活させて現在に至っています。

平成2年には近畿東海北陸ブロック民族芸能大会に出場した経験があります。

地域の子ども達に伝えていくために歌上げを一緒に行うなど、町民みんなが保存会会員という気持ちで取り組んでいます。

『太鼓踊り』はお盆に先祖供養、地藏盆には水子供養のため、秋の祭礼には神仏を祝（ほ）ぐ意味で行うものと考えられています。



太鼓踊りの際、構成としては、真ん中で太鼓をつけて踊る、踊り手（太鼓打ち）2名と、歌いながら踊り子の外側に円を描いて回る歌上げによって構成されています。

歌上げはテンコ笠を被る「天呼」、繰り返して歌う「返し」、「笛」に分かれています。

また、祭りの最後のカイトの「宝」には笛の後にほら貝が2名入ります。

踊り手は浴衣に草鞋、背中に紅白の津、白い手甲、花笠で華やかに装い、太鼓を振り上げたり、飛んだりもします。

歌上げは着流しに下駄、黒足袋、手には白扇を持って歌います。

踊りの様子は三重県のホームページで掲載されていますので、是非ご覧ください。

「三重県インターネット放送局の伝統行事・北勢」 <http://www.pref.mie.lg.jp/movie/>

受け継がれる『宮妻音頭』

地区の運動会や文化祭もみじ祭りなどで披露されている『宮妻音頭』。宮妻町の方ばかりでなく、水沢地区の有志の方により踊りや歌を受け継がれています。

歌詞は本町の森 俊雄さんが作成され、水沢の四季を歌われています。しかし残念ながら、いつ頃どうしてできたのかなど、どなたに聞いてもわかりません。



宮妻音頭

宮妻音頭
 宮妻町の方ばかりでなく、水沢地区の有志の方により踊りや歌を受け継がれています。
 歌詞は本町の森 俊雄さんが作成され、水沢の四季を歌われています。しかし残念ながら、いつ頃どうしてできたのかなど、どなたに聞いてもわかりません。

すいざわの史跡

「水沢埋蔵金」伝説

とんち話で親しまれている一休さん。皆さんご存知ですよね。とりわけ足利義満と子坊主一休さんとの禅問答は有名。現在でも「なるほど！」と納得できるやり取りが数々残されています。

時は室町時代。南朝と北朝が義満によって統一され、ようやく乱世が落ち着き始めていた頃、とはいえ、多くの人は貧しく、飢えや病気で苦しんだといえます。その中において一休さんと同じ様に修行僧たちは人々と共に生き、仏の教えを説いたとされています。

この頃、ひとりの僧が当地に現れます。僧の名は円霊。この僧の出現から「水沢埋蔵金」伝説が始まります。

円霊はこの地、山の坊本郷(現宮妻町)に人々と力を合わせ寺院を建立する事を決め、その資金を作るために奔走したといえます。一三八四年十月、時の將軍、足利義満に御堂建設を要請。その願いは叶い、築営資金「金、五〇〇両」が下賜される事になりました。

数年後、本郷に本堂である光明寺が完成。光明寺の門前には如堂所等二十八院が建ち並び、その荘厳さはこの上なかつたといいま

す。大勢の修行僧が出入りし、近郷近在からの参詣者も多く活気に溢れた門前町がそこには活気に溢れた門前町がそこには確かに存在したのです。

『三重古事記』によれば「冠ヶ岳の麓に往昔修験の者多く住めり。里の俗人言う。七堂伽藍の寺あり」と記されています。

しかし、栄華を誇った光明寺・門前の街並みも今はその姿をとどめておらず、残されているのは杉林の中の約二十メートル四方の平坦な地形とその中央にある、仏像らしきものが彫られた碑のみ。それは楓溪を抜け、宮妻峡に向けて林道を四〇〇メートル程進んだ左側にあります。

鈴鹿の山々を背に、はるかに伊勢湾を臨むこの絶景の高台にどのような光景が広がっていたのでしょうか。静寂の中、その地に佇み耳をすましてみると、どこからか遠い昔の町の賑わいがよみがえって来る様にも思えます。ではなぜ栄華を誇ったはずの光明寺が跡かたもなく消えてしまったのでしょうか。

それは、歴史上の人物の中にあっても極めて有名な人物の出現によって、二〇〇年続いた名付けて「水沢光明寺」の栄華にピリオドが打たれます。

世は戦国時代、天下統一を目指す信長にとつて、上洛の途中にある伊勢は何とでも攻略しておかなければならない地でありまし



一五六八年二月、信長軍は兵四万の体勢で北伊勢侵攻。この大軍の前に北伊勢の城は落ち、寺社等は無残にもことごとく焼き尽くされました。信長の残忍さは歴史的に見ても類をみない程であつたといわれています。

軍勢のおし寄せの中、いち早く気配を察した僧たちは、寺の宝物と一緒に「金の粒」を境内の土の中に埋め身を隠したと語り継がれこれこそが「水沢埋蔵金」の正体なのです。

しかし、その「金の小粒」は今だ発見されていません。宝物は？金の小粒は？

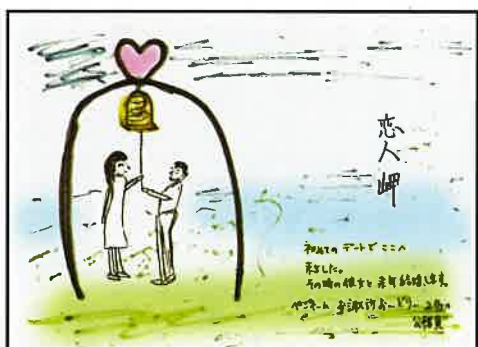
さあ、皆さん推理を働かせて「宝探し」を試みてはいかががでしょうか。ここに数枚の写真があります。これは重要なヒントになるかもしれません。「これは何だ？」「ここはどこだ？」と疑問を持たれた方は是非、水沢地区ホームページを開いてみましょう。

さてさて、「金の小粒」はどこに眠っているのでしょうか。ちなみに本堂跡からは「鈴」が出し、現在もこの「鈴」は常願寺で使われているとの事です。四〇〇年の時をこえて「金の小粒」はあなたを探してくれるのを待っているかもしれせんよ。



水沢4コマ劇場

未来妄想図 in 水沢
しやち



夏の風物詩・・・？

近年、盆踊りが姿を消しています。その中で、隔年開催される三本松町、西條町の盆踊りを紹介します。「よいとこせー、どっこいしょ」で始まる江州音頭、子どもたちに人気の踊りや定番の炭鉾節など、やぐらを囲み、みんなが踊る姿はまさに夏の風物詩といえるでしょう。

水沢お諏訪おどり保存会のみなさんのご協力により、市の無形文化財として認められている、『お諏訪おどり』が披露され、大きな喝采がおこります。

フィナーレを飾る江州音頭は、踊りの輪が倍增、押すな押すなの大にぎわい。

もしかして…くじ引き目当て?? (笑)

地域住民の交流を目的として開催されていますが、姿を消しつつある盆踊りの光景。さみしい限りです。

でも、三本松町、西條町は元気に夏祭りを楽しんでいます。

毎日 ありがとうございます。

「子どもは宝やでな。交通事故で亡くしたら、町の未来がなくなるわなあ。みんなで守ってかなあかんわさ。」と話すのは萩村正男さん。萩村さんは登下校する中学生が国道306号線を安全に横断できるよう、ボランティアで見守ってくださっています。

子ども達へのあたたかい心づかいに感謝の気持ちでいっぱいです。

幸福村西の交差点は、事故がたくさん発生している場所です。

交通量のわりに信号機がつかないため、地域でも一日も早く設置してもらおう働きを行っています。

地域のみなさまのあたたかいご協力のもと、子ども達が安心かつ安全で登下校できるよう見守っていききたいものです。

編集後記

今回は、「継承」をテーマに取り組みました。引き継いでいく事の難しさを感じました。

私達、広報部も、この問題にぶちあたっています。

今回の号が無事発行できた事を嬉しく思っています。

- ### ご寄付ありがとうございます
- 水沢地区社会教育福祉推進協議会では、地区の方々から寄せられた寄付金を、社会を明るくする運動、町民運動会、地区文化祭、青少年の健全育成事業や地区の環境づくりなどに活用させていただいております。今後とも、「生活改善運動」にご協力いただきますようお願いいたします。平成二十五年三月以降にご寄付いただきましたのは、次のの方々です。
- 水谷 明仁 様(四ツ谷町)
 - 中川 正司 様(水沢東町)
 - 水沢本町旧十三番組自治会 様
 - 根本 豊 様(四ツ谷町)
 - 水谷 善徳 様(四ツ谷町)
 - 伊藤 年郎 様(四ツ谷町)
 - 森 隆 様(水沢本町)
 - 中川 裕亮 様(水沢東町)
 - 畑中 かずへ様(北谷町)
 - 清水 厚美 様(四ツ谷町)
 - 佐竹 兵造 様(中谷町)
 - 堤 真也 様(水沢谷町)